

## 編集後記 人生とは自転車のようなもの

京都の平安京、奈良の平城京は唐の長安に倣って、道路を碁盤の目状に組み合わせて区画して建設されました。

中国で生まれたこの条坊制は、儒教の教典『周礼』の思想が元になっているといえます。そこには、「一辺九里の正方形で、側面にはそれぞれ三つずつの門を開く。城内には、南北と東西に九条ずつの街路を交差させ、幅は車のわだち（八尺）の9倍とする。」とあるそうです。

車の「わだち（轍、輪立ち）」とは車輪の跡。つまり車輪の幅が道幅の基準となっています。

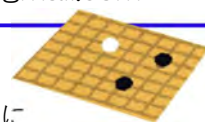
「車」を走らせることを前提として、車の走りやすいまっすぐな道を整備していったのです。曲がりくねった道やガタガタ道や草ぼうぼうの道では、車を楽に走らせることができません。道は車とともに発展・発達してきたのですね。(^^)



アヴェニール労務事務所 所長 柿野元博

<http://www.avenir-sr.jp>

E-Mail [avenir4you@gmail.com](mailto:avenir4you@gmail.com)



まっすぐな道しかムリ

しかしながら、走りやすい道路を整備することは車の高速化につながり、簡単になった運転が「ながら運転」を誘発し、事故が増えることになりました。

とりわけ昨今増えているのが自転車事故。2022年の交通事故全体に占める自転車関連事故の割合は23.3%。さらに上昇傾向にあります。

自転車事故と聞けば、乱暴な運転で歩行者と接触したり、交通ルールを無視して車とぶつかったり、そんなケースが思い浮かびますが、実は**単独事故**の死傷者がここ6年で3.3倍と**増えている**そうです。(日経新聞2024年6月17日より)単独事故ということは、その殆どの原因がおそらく不注意。僕の周りでも自転車にまつわる通勤災害が増えています。皆さん注意してくださいね。



そんな増加する自転車事故を背景として、**自転車の交通違反**に反則金を納付させる、いわゆる「**青切符**」による取締りの導入を盛り込んだ**改正道路交通法**が、先月参院本会議で可決されました。**携帯電話を使用しながらの運転や、傘を差したりイヤホンしたりしながらの運転等**に対し、青切符が切られ反則金の納付が求められることとなります。

なんでも規則と罰で縛るのは、世知辛い感じがしないわけではないですが、不幸な事故が増えてほしくはないですからね。

自転車にまつわる、かの**アルベルト・アインシュタイン**の言葉があります。

**人生とは自転車のようなものだ。**

**倒れないようにするには走らなければならない。**

道路も自転車も自動車もますます進化していくでしょう。それで幸せになれるかどうかは扱う僕ら人間次第。僕らは出てくる課題にひとつずつ解決を図りながら前に進まなければなりません。

僕は中学・高校と自転車通学でした。高校は片道30分。自転車小僧だった僕は、今も自転車大好き。(^^)「人生とは自転車のようなもの」だとしたら、自転車の運転には、その人の人生観や人間性が出るのかもしれない。自転車によく乗る僕も、法律がどうであれ恥ずかしくない運転を心掛けたいと思います。

高校時代といえば、先日家内が高校の同窓会に久しぶりに行った時の話。先生だと思ってビールをお酌しに行っても話が合わないと思っていたら、先生ではなく同級生だったと笑って話してくれました。

その人の名札見て気づいて逃げるようにその場を去ったそうですが、その同級生からすると、とんだもらい事故。いや、当て逃げ事故かも。(@\_@;) 事故って、どこでも起こりうるものようです。今日も明日も、皆さん、どうかご安全に。(^^)!



ここないと倒れちゃう



今年も街中にダース・ベイターみたいな自転車を見かける季節となりました。



ここないと倒れちゃう

中学の時はヘルメット被ってました



想像図

そっちはキミの同級生やで

先生お変わりなく

ここは走るなよ